

北太平洋と日本におけるさけます類の資源と増殖

おかもと やすたか
岡本 康孝 (さけますセンター 業務推進部)

2008年の北太平洋

漁獲数

第17回NPAFC年次会議における各国の報告によると、2008年1-12月の北太平洋の漁獲数は3億4,754万尾で、前年の5億1,117万尾より32%減少しました(図1A)。

これを魚種別に見ると、カラフトマスが最も多い2億159万尾で全体の58%を占めており、前年の3億4,962万尾に比べ42%減少しました。次いでサケが8,891万尾(構成比26%,対前年比92%)、ベニザケが4,980万尾(構成比14%,対前年比84%)と続き、これら3魚種で98%以上を占めています。ギンザケとマスノスケは、それぞれ629万尾(対前年比123%)、95万尾(対前年比87%)となりました(図1A)。

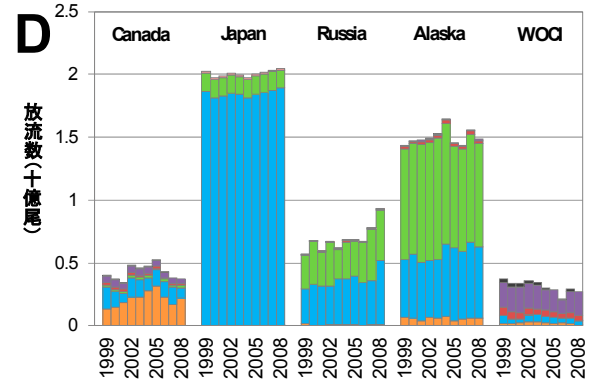
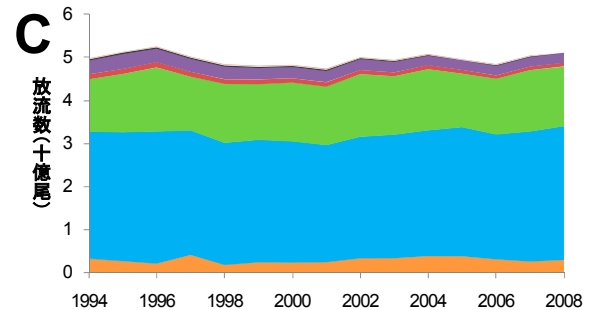
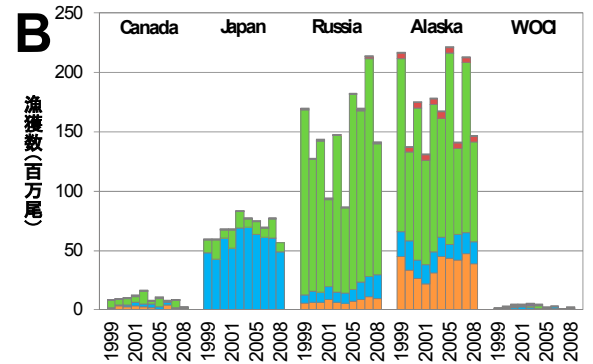
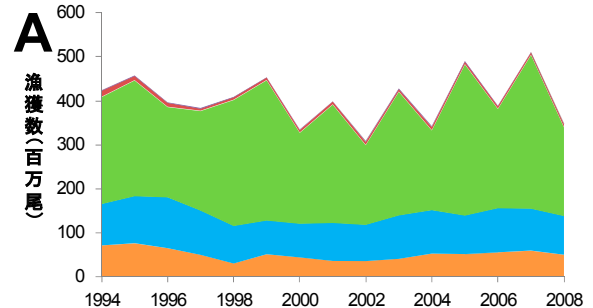
地域別では、アラスカ州が1億4,632万尾と最も多く、以下、ロシア1億4,097万尾、日本5,663万尾、WOCI(ワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州)185万尾、カナダ169万尾、韓国8万尾と続いています(図1B)。

人工ふ化放流数

2008年1-12月に人工ふ化放流された幼稚魚数は51億2,030万尾で、前年の50億3,855万尾に比べ1.6%増加しました(図1C)。

魚種別ではサケが31億61万尾で半数以上を占め、これに次ぐカラフトマスの13億8,832万尾と合わせると全体の9割近くを占めます(図1C)。

地域別では日本が20億4,639万尾と最も多く、以下、アラスカ州14億8,680万尾、ロシア9億2,706万尾、カナダ3億7,159万尾、WOCI2億7,191万尾、韓国1,657万尾と続いています(図1D)。



■ ベニザケ ■ サケ ■ カラフトマス
■ ギンザケ ■ マスノスケ ■ スチールヘッド
■ サクラマス

図1. 北太平洋におけるさけます類の魚種別漁獲数(A)、地域別魚種別の漁獲数(B)、北太平洋におけるさけます類の魚種別人工ふ化放流数(C)及び地域別魚種別の人工ふ化放流数(D)。1994-2006年は「NPAFC Statistical Yearbook」による商業漁獲数の確定値だが、2007年以降はNPAFC年次報告等で示された暫定値である。1998年までのロシアにはEEZ(排他的経済水域)で他国が漁獲したものを含む。WOCIはワシントン、オレゴン、カリフォルニア、アイダホ州の合計。韓国は他国に比べ漁獲尾数・放流尾数ともにわずかなため、図中では省略している。

2009年度の日本

サケ

2009年度の来遊数（沿岸での漁獲と内水面での捕獲の合計）は12月31日現在で6,247万尾、前年度同期比119%となっています（図2）。来遊数の年変動をみると、1996年から減少を続けた後、2000年度を境に増加傾向に転じ、資源変動はあるものの近年は高位で安定しています。採卵数は12月31日現在で21億6,784万粒を確保し、放流数もほぼ計画どおりの18億360万尾程度とすることが見込まれます。

カラフトマス

主産地である北海道における2009年度来遊数は1,113万尾で前年度比158.0%と大きく増加しました。カラフトマスの来遊数は1994年に急増して以来、隔年の資源変動を示し、1994-2002年の偶数年級群での平均が1,500万尾、奇数年級群のそれは700万尾で、両者にはおよそ2倍の開きがありました。しかし2003年からそのパターンが崩れ、豊漁年と不漁年が逆転しています。2009年度についても、奇数年でありながら多い来遊数となりました。なお、採卵数は1億6,764万粒でほぼ計画どおりのため、放流数も計画の1億3,420万尾程度とすることが見込まれます（図3）。

サクラマス

2009年度の北海道における河川捕獲数は12,923尾で前年度比52.6%と大幅に減少しましたが、昨年度の捕獲数が多かったため平年並みの水準となっています。採卵数は402万粒で前年度比95%となりました。なお、2008-2009年度の本州河川捕獲数については現在確認中です（図4）。

ベニザケ

2009年度の河川捕獲数は1,263尾で前年度比225%となり、大幅に増加しました。採卵数は40万粒と前年度とほぼ同じ値になりました。当センターでは北海道の3河川（安平川・静内川・釧路川）でベニザケの人工ふ化放流に取り組んでいます。

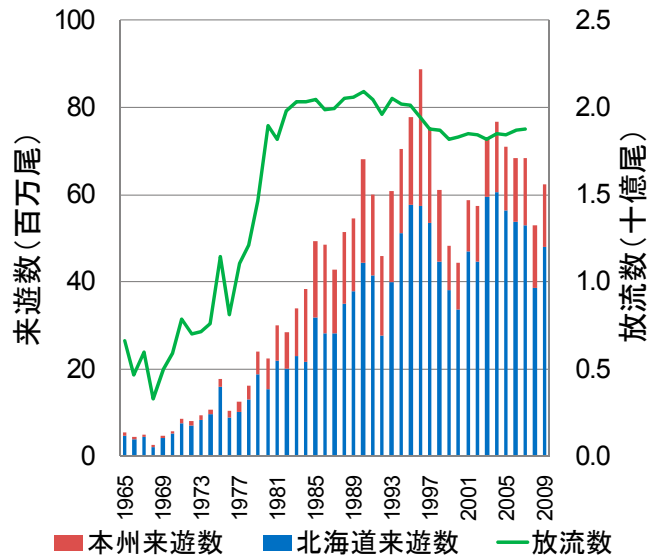


図2. 1965-2009年度の日本におけるサケの来遊数と人工ふ化放流数。2009年度来遊数は1月10日現在。

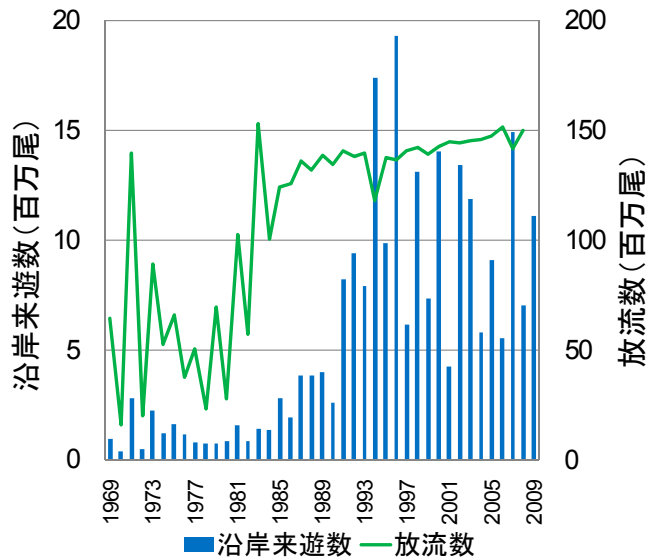


図3. 1969-2009年度の日本におけるカラフトマスの来遊数と人工ふ化放流数。

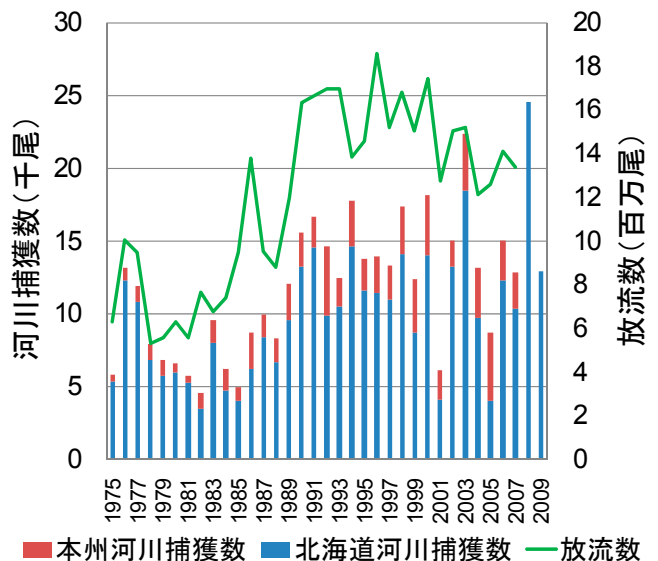


図4. 1975-2009年度の日本におけるサクラマスの河川捕獲数と人工ふ化放流数。2008-2009の本州河川捕獲数は現在確認中。